

2023年5月20日開催
山梨工業会関西支部

関西支部 第6回異業種交流会 開催報告

2023年5月20日に白鶴美術館を観覧する異業種交流会が開催されました。お世話いただきました白鶴酒造さまには厚く感謝申し上げます。2020年、2021年にも開催予定でしたが募集まで始めたもののコロナ禍の拡大で中止していたもので4年ぶりの開催です。

白鶴美術館は神戸市東灘区の高級住宅街の中にあり、古くは建築や石碑などに使われる御影石の産地です。阪急「御影」駅から15分ほど歩くのですが標高が100mあり海を見渡すこともできて涼しい風を感じます。この道は昔の「有馬道」のひとつで米や酒を六甲山越えて御影と有馬の間を運んでいたそうです。美術館の城郭風の本館は来年で建設90年だそうで青銅葺の重厚な印象です。その前には大きな燈籠が据えられています。不釣り合いなほど大きいのですが、実は奈良の東大寺の国宝金銅八角燈籠を同じ大きさに模したもので、東大寺では大きくは感じられないそうです。



白鶴美術館別館前にて

はじめに学芸員の方からスライドでの解説をいただきました。美術館の所蔵は国宝、重要文化財を含め1400点以上ですが、白鶴酒造七代目の嘉納治兵衛氏が昭和6年に私財を公開して設立されたそうです。春季展「中国の銅鏡」が開催中でした。日本の三角縁神獣鏡より時代が下る唐時代が銅鏡のピークなのですが、鏡に登場する鶴、鴨などの鳥、また龍、麒麟、鹿、馬などの獣の描かれ方とその意味を見ることができます。銅の本体に金や銀など埋め込んだ加工の精緻さ、力強さには驚きます。また別館では春季展「近代ペルシアのメダリオン絨毯」が開催中で大きなペルシア絨毯が蒐集展示されており多様さを感じるこ

とができます。ペルシア絨毯で最も多く見られる意匠がメダリオン・コーナーと呼ばれるデザインです。メダル様の大きな文様を中央に置き4隅のコーナーにその文様の4半分のパターン配したもので、メダリオンとは「メダル型の」といった意味だそうです。



白鶴美術館本館



玄関口

懇親会は西宮北口に移動し「エビスバー阪急西宮ガーデンズゲート館店」で行いました。参加は15名といつもより少なくその分、深いコミュニケーションができたと思います。

ご参加いただきました広瀬様(山梨県知事政策局大阪事務所所長)、高田様(NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議専務理事)、澤村様(フジクレールワイナリー株式会社社長(旧社名フジッコワイナリー株式会社))、(順不同)たいへんありがとうございました。



懇親会

(文責：E47長谷川)